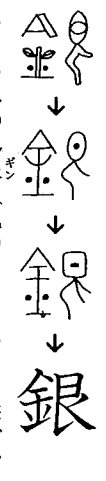
銀

三年　画数 14　筆順 金 釒 釒 釒 銀　オン ギン　クン

成り立ち



〝退く〟といういみの〝艮〟（見のうしろむきの形で、「うしろを見る」という字。呉音はコン）〟と〝金〟とを組み合わせて作った字です。

「金よりもねうちがひと足〝退（5年779）〟いた金ぞく」といういみの字で、金のつぎにねうちのある〝ギン〟をあらわしたものです。

銀は、色が白っぽいので、〝白銀（白がね）〟ともいわれます（金は〝黄金（黄がね）〟といいます。）。

〔玉に次ぐ良質の石を〝琅〟という。玉はダイヤモンドを始めとする最も硬い石で、これに次ぐ硬い石が大理石などの〝琅〟である。銀も琅も同じ構成の字である。〕

使い方

▽雪がふりつもりますと、あたりは一めんに銀世界にかわります。風がふくと、粉雪がまい上がって銀粉のようにきれいです。

▽銀行でうけとった銀貨をあやまっておとしましたら銀髪の老人がそれをひろってくれました。

熟語例

▽銀粉（銀の粉。銀をこまかくくだいて粉のようにしたもの。また、銀色をした粉のこと。）

▽銀貨（銀をおもにつかって作った貨幣のこと。）

▽銀行（銀はお金のいみ。行はお店のいみ。人々からあずかったお金を運用するしごとをする店、といういみのことばです。）

▽銀髪（銀色をした髪の毛。白髪（しらが）のこと。）

▽銀世界（「銀色をした世界」ということで、雪におおわれたけしきのことをいうのにつかうことばです。）

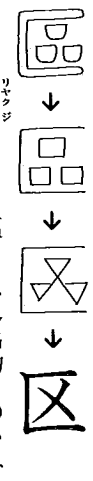
▽銀盤（「銀の大皿」といういみのことばですが、スケートリンクのことをいいます。）

▽銀幕（映画をうつすスクリーンのことをいいます。また、〝映画〟や〝映画界〟のいみにもつかいます。）

区

三年　画数 4　筆順 一 フ 又 区　オン ク　クン

成り立ち



〝区〟は〝區〟の略字です。〝區〟は、〝品物〟のいみの〝品〟と、〝はこ〟の形をあらわした〝匚（医3年249）〟とを組み合わせて作った字です。「品物を〝区分け〟しておさめておくためのはこ」をあらわした字です。

〝区分け〟〝区分〟といういみをあらわすのにつかいます。例区別、区画、区域。

〝区分けされた所〟のいみにつかわれます。例地区、新宿区、区役所。

また、区分けして小さくなるところから、〝小さい〟といういみにもつかわれます。例区々たる身（ちっぽけな体）。さらに、分かれて〝ばらばら〟になるいみにもつかわれます。例意見が区々に分かれてまとまらない。

使い方

▽机の上が、いろいろな品物で乱雑なので、小さな整理箱を買って、品物を区分けして入れました。それで、やっと机の上がきれいになりました。

▽おかあさんは、住民票をとりに、区役所へ行きました。

熟語例

▽区別（あるものと、他のものとを、違った点で分けること。「ふたごは、あまりよく似ているので、区別がつかない」などというふうに、つかいます。）

▽区画（区分けしたしきり。境界）

▽区域（区分けした地域。「この、なわをはってある区域は、立入り禁止です」などというふうに、つかいます。）

▽地区（一定の区域。一区画の地域）

▽区々（小さく取るに足らないこと。「区々たる小国に生まれながら、天下を望んだ英雄児」などというふうに、つかいます。また、ばらばらで、まとまりがない意味にもつかわれます。「意見が区々に分かれてしまい、会議はとうとう成立しませんでした」などというふうに、つかわれます。）